午前９時３０分　開議

○議長（近藤八郎君）　ただいまから、会議を再開いたします。
　ただいまの出席議員数は、全員の８人です。
　定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。
　本日の議事日程は、お手元に配布のとおりです。
　なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、傍聴人数を制限しております。

○議長（近藤八郎君）　日程第１　「委員会報告」
　議会の運営について、議会運営委員長から報告をいただきます。
　我孫子洋昌　議会運営委員長。

○議会運営委員長（我孫子洋昌君）　令和４年下川町議会定例会３月定例会議の運営について、去る３月７日に開催いたしました議会運営委員会の審議結果について、御報告いたします。
　当日は、今定例会議の一般質問の日程について審議を行いました。
　一般質問につきましては、3 月 7 日、午前 10 時の通告期限までに２名の議員から通告がありました。このことから、本日 14 日に２名が一般質問を行うこととしました。
　なお、質問方法等は、下川町議会会議条例及び下川町議会会議条例等運用例に基づいて行うこととなります。
　次に、去る 3 月 13 日に開催いたしました議会運営委員会の審議結果について、御報告いたします。
　今定例会議、中日の追加提案予定事項について審議を行いました。
　町長提案の追加件数は１件で、内容は承認１件でありました。
　議会提案の追加件数は４件で、内容は委員会報告４件であります。
　次に、提案議案等の審議要領等についてでありますが、町長提案１件、議会提案４件、合わせて５件については、提案日に本会議において報告、審議を行うことといたしました。
　以上、議会運営委員会における審議結果報告といたします。

○議長（近藤八郎君）　続いて、総務産業常任委員会から報告をいただきます。
　大西　功　総務産業常任委員長。

○総務産業常任委員長（大西功君）　今定例会議において当委員会に付託を受けました、議案第 60 号　下川町いじめ防止対策推進条例の一部を改正する条例について、委員会における審査経過について報告をいたします。
　当委員会としては、付託された議案について鋭意審査を進めてきたところではありましたが、過日、付託されている議案の撤回請求があったことの報告を受けました。
　その報告を踏まえ、当委員会としての審査の結果、撤回を了とすべきものと決したところであります。

以上、報告をさせていただきます。

○議長（近藤八郎君）　以上で報告を終わります。

○議長（近藤八郎君）　日程第２　「一般質問」を行います。
お手元に配布いたしました質問要旨の順に発言を許します。
質問番号１番、５番　我孫子洋昌 議員。

○5 番（我孫子洋昌君）　今回、私は大きな項目で二つ一般質問を出させていただいております。
谷町長が次期町長選挙へ出馬しないことを表明され、文字どおり転換期を迎える下川町において、町民一人一人が安心して生活を営み、次世代を担う子供たちが将来に向けて希望を持てる町政、また、教育行政のあり方について伺います。
一つ目の項目です。高齢化が進む下川町におきまして、高齢者が安心して住み続けられるように、また、少子化が進む下川町において、子供一人一人を大切にするために、ハード、ソフトの両面から継続的な支援施策を展開する必要があります。そこで、介護福祉や子育てに関する行政計画のあり方についてお伺いします。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
町長。

○町長（谷　一之君）　我孫子議員の「福祉・子育て施策と計画のあり方、および町職員の人材獲得・育成について」の御質問にお答えいたしたいと思います。
1 点目にいただきました質問の回答でございますが、「福祉・子育て施策と計画のあり方」につきましては、現在、本町の高齢化率は、令和５年２月末で 40.1％であり、ここ数年はこの数値をほぼ維持している状況にございます。また、少子化問題につきましても、次代の社会を担う子供たちの成長を社会全体で応援するため、経済的負担の軽減や、仕事と家庭の両立など、家庭や子育てに夢を持ち、子供を安心して生み、育てることができる環境を整備し、子育てに喜びを感じることができる地域社会の構築が求められております。
そのような状況の中、下川町地域保健福祉計画を中心に、「住み慣れた地域で、健康で安全・安心して暮らすことができるまちづくり」や「子供たちの元気な声があふれるよう、安心して子供を産み育てることができる環境づくり」などを念頭に据えて、各分野において、多岐にわたる施策を講じているところであり、計画の目的達成を目指すことが重要と考えているところであります。
御質問にある「行政計画」につきましては、これまで同様、町民の皆さまの要望や各種委員会の意見を基に策定し、推進してまいりたいと思います。
以上申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（近藤八郎君）　５番　我孫子議員。

○5 番（我孫子洋昌君）　ありがとうございます。今、町長から答弁をいただいたところです。人口が 3,000 人を割り込むことが目前となっている下川町…とはいえ、町民一人一人ですね…健康や仕事、教育など、世代によってそれぞれ抱える課題は異なりますが、それぞれ苦しい現状にあるというところは聞いているところです。今、高齢者 40%余りというような数字も示されましたが、高齢者の方の不安要素としては、昨今、終活…終わる活動と書いて終活ですね…終活といった言葉を耳にする機会が増えているように、いかに人生の最終段階を迎えることができるかと、そういったことも大きく…課題としてクローズアップされているといったところでないでしょうか。もちろんそこには、介護、医療、さらには家屋の取り扱いや家財道具の取り扱い…様々な問題、課題が各家庭によってはあるかと思います。世帯によっては、お墓の位置…在りかをどうするかといったことも課題として捉えている方もいらっしゃるというふうに伺っております。

また、子供、子育てにおいては、少子化が進む本町においては、安心して子育てができる環境整備が必要かというふうに改めて考えるところです。

ソフト・ハードというふうに示させていただきましたが、下川の医療環境や子育て支援というのは、限られた資源の中、職員の努力により一定の評価は受けているといったところではあるかと思いますが、住民の方にとっては…それぞれの置かれた状況、課題によって、いわゆる「隣の芝生は青い」というふうに捉えているということも場合によってはあるかというふうに考えます。また、どうしても…町内で整備することが物理的にかなわないといった…そういった資源の提供といったこともあるかと思いますが、一人一人…2030 年誰一人取り残されないといった町を目指す本町であれば、それらへのアクセスについてです…支援策が難しければ何かの手立てというんですかね…アクセスできる、それらにアプローチできるところに支援策を考えるであるとか、いかにして下川に暮らし続けることができるか、それがないがために下川を離れてしまうといったことが…そういったこと…全部なしにするというのは難しいかもしれませんが、少しずつそういったところを…課題に対応していく、一人一人を大切にする、そういったまちづくりを進めるべきではないかというふうに考えます。高齢者、子育て世代、それぞれの課題はそれぞれ違うとは思いますが、各世代から…また個々からですね聞き取りを進めて、十分な手立てを講じていくべきだというふうに考えますがいかがでしょうか、お伺いします。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。

町長。

○町長（谷　一之君）　答弁でも申し上げましたけれども、下川町の人口が今…議員が仰るように…3,000 人を割ろうかとしている状況にあって、大変厳しい状況にあります。

当然、人口減少が進みますと消費購買力も落ちてまいりますし、また、様々な経済活動も停滞してくるというのが実態でございます。

特に厳しい事案に直面してるのは、やはり医療関係、福祉関係でございまして、特に

医療関係については、町立病院を抱えておりますけども、外来患者数が減少することによって、外科医師も未設置にしなければならない、あるいはまた歯科医院の廃業によって住民の皆さんは非常に不便を感じてる、こういうようなことが…どんどんこの人口減少によって起きてくるというところであります。

その代替案として、どのような方策を行政として進めていくことができるのかというのは、これは日夜考えていかなければならないところでございまして、そのへんをしっかり施策として、そしてまた民間事業者の方々への支援として、しっかり取り組んでいくことが今後求められていくんではないかと思っています。

また、子育て、あるいはまた子供の環境をしっかり作っていく上では、これは教育ばかりではなくて、社会全体で子供たちを見守り、そして育てていくという、そういう地域ぐるみでの取り組みが今後更に必要になってくるんではないかと思っております。

そのようなことを念頭に置きながら、行政として計画を立て、そして政策を立案して執行していくことが不可欠ではないかと考えてございますので、今後もそれぞれの担当の方で、しっかりとそのへん情報収集をしながら、そして施策展開ができるように期待をするところでございます。以上です。

○議長（近藤八郎君）　5番　我孫子議員。

○5番（我孫子洋昌君）　人口減少…それに伴い様々な…町の…体力というんですか…そういった要素が先細っていくという中で、こういった厳しい現状にあると…改めて認識したところです。

それで、先ほどの終活といった言葉もあるんですけれども、国の方でも相続登記の義務化といったことが…対応が始まるというふうに聞いております。町としても高齢化率が40%ということは、これらの課題に直面する方がそれだけ多いということも言えるのではないでしょうか。そういう国の施策もあるんですが、直近の…高齢化率が高い町ということで、それぞれの課題に応じた対策、施策を全町的に実施すること、先ほど町長の答弁にもありましたが、そういった現状を踏まえた施策を計画、実施していくことが必要ではないかというふうに考えます。

また、これまでも国の施策に従った形で、介護や子育て、保育といった施策を展開しており、なかなか…下川町が独自でとか、加配であるとか、ほかの町とは違って…あくまでも基本は国の基準に従うというようなスタンスで行われているということでありますが、それでもやはり一人一人に目を行き届かせるといった考え方、そういった視野というのは必要ではないかというふうに改めて考えるところであります。

今回、子供、子育てについてもテーマとして出させていただいたんですが、町民の方からも…認定こども園ですね、今は保健福祉課の所管というふうになっておりますが、子供の成長といった観点から、これについては教育課も関わって情報共有できるようにすべきではないかというふうに考えます。特別支援教育の面では、そういう就学前のお子さんについて情報共有を…教育委員会も関わっているというふうに認識をしていますが、健常児といったら言い方が変ですけど…いわゆるそういった対象にならないお子さんについても、子供一人一人の成長、学びを支える上でも、いわゆる小1ギャップの

解消といった問題もありますので、教育委員会と認定こども園の連携が…今以上にできるような形といったものができないか、そのあたり教育長に考えをお伺いいたします。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　教育長。

○教育長（川島政吉君）　我孫子議員の質問に対してお答えさせていただきます。
　教育委員会と保健福祉課の方では、月に一度、学校経営研究協議会といって…保健福祉課と認定こども園の園長と小中学校の校長先生、教頭先生が集まってですね、情報交換を毎月一度行っております。その中で、特別支援教育だけじゃなくて、普段気になる子供たちの情報を交流しているところです。以上です。

○議長（近藤八郎君）　5番　我孫子議員。

○5 番（我孫子洋昌君）　そのあたりについても、是非…保護者の方、親世代の方にですね、町としては教育委員会、認定こども園ともしっかりと情報共有を行っているといったことをしっかりと告知、情報共有をして、保護者の方の不安解消に…ちょっと仕事は増やすかもしれませんが…そういったことで理解を得て、子育てに資するような形で進めるべきではないかというふうに考えます。
　それでは、二つ目の項目に移らせていただきます。
　先ほども…町長の方からも答弁があったんですが、町の様子をしっかりと捉えて施策を打つというふうな考え方が示されたところです。それで、多様な町民ニーズや社会情勢の変化、特にこの3年ほどはコロナといった大きな影響がもたらされましたが、これらの変化に迅速に対応していくためには、町職員の資質向上が継続的に必要ではないかというふうに考えます。また、いわゆる働き方改革であるとか、役場の仕事のブランディングなど、人材の獲得競争…もうこれが始まっているというふうに考え、これに勝ち残っていく長期的な戦略が必要になってくるというふうに考えます。
　下川町はこれまでどういった考えでこれに取り組んでこられたのか。また、今後もいかせる戦略や人材の育成、ノウハウといったものを有しているのか、この点についてお伺いいたします。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　御質問の2点目になりますけれども、「町職員の人材獲得・育成について」でありますが、町では、森林資源を活用した循環型森林経営や、ＳＤＧｓを基本とした持続可能な地域社会実現のため、各種計画の策定や様々な事業に取り組んできたところでございます。このような取り組みが本町での採用を希望される多くの方の志望動機となっていることから、これらの事業の推進を図ることが役場の仕事のブランディングにもつながっていると考えてございます。

次に、人材育成についてでありますが、職員研修計画に基づき、職員研修を実施しているところであり、委託研修については、採用４年目までの基礎研修・初級研修・中級研修のほか、一般研修・能力開発研修・専門実務研修などに参加しているほか、町の独自研修、職員の自主参加研修なども実施しているところでございます。また、国の機関等への派遣研修、公益財団法人はまなす財団が主催する「北海道地域経営塾」への参加、全国町村会が主催する「地域農政未来塾」への参加なども実施しており、今後におきましても、研修の時期や内容を適切に判断して、人材育成が図られるよう進めてまいりたいと思います。

以上申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（近藤八郎君）　５番　我孫子議員。

○5 番（我孫子洋昌君）　人材の件についての質疑です。これまでも度々…この場でも議論をしてきた内容ともなるんですが、今、町長からの答弁にあった、各種計画への取り組みであるとか、町の森林経営の取り組み、そういったことがこういう人材獲得の動機になっているというふうなことが示されたところです。

そういった動機を持って…この町に勤め、採用された職員が長く勤務していけるかどうかといったものは、これからの人材獲得の大きな要素になるのではないかというふうになります。そういった…「いいなあ下川町…行ってみたいな、働いてみたいな」と思う…そういった…町の役場で実際に仕事を始めて、実際働いてみると理想と現実というものがあるかもしれませんが、何ていうんですかね…条件面では町の職員ということで…ほかの自治体とそんな差がつくということはないと思うんですが、仕事のやりがいであるとか、そういう志望動機が…最初に何かいきなり自分が志望するセクションではなかなか仕事ができないかもしれませんが、それぞれの志望動機に沿った形での人材配置であるとか、そういった取り組みに関わることができる、そういったことが…やりがいであるとか、達成感、また町民からの評価といったものが、職員の方が仕事に対する考え方や、ここで働き続けたいというふうに考えるモチベーションになっていくのではないかというふうに考えます。なので、今、派遣研修等で、はまなす財団さんの地域経営塾であるとか、農政未来塾といったものがありましたが、そういったところに派遣されて得た…何か知識であるとか、こういったことを…刺激を受けて帰ってきた職員が、それが実際の仕事にいかせるような、あくまで研修は研修で、仕事は仕事っていうふうに分けちゃうのではなくて、せっかく知見が得られたり、刺激を受けて帰ってきた職員がそれを実際の職場でいかせるような…何かそういうものがあると更に…研修に行って帰ってきて、それを実際の職場でいかす、それが評価されて、また次のやる気につながっていく、何かそういったものもできるのではないかというふうに考えますが、これまで…はまなす財団の地域経営塾であるとか、農政未来塾に参加された方が戻って来られて、実際の施策に何かこう…反映されたといったことがもしあれば、紹介してください。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。

町長。

○町長（谷　一之君）　直接施策に反映したというのは…まだ実態としてはないところでありますけども、やはり研修することによって多くの方々と出会いがあると、そこによって人脈も形成されてくるという、そういう可能性があります。また、自分の考え方、そして、今後…持ってるビジョンなど、そのへんのレポートが必ず求められておりますので、そういうものを私どもでも共有しながら、そして施策に反映できる、そういうきっかけにしていきたいと思っているところであります。

さらに、研修の中では、国や道の方に派遣するという…こういう研修も実際に行っているわけでありますけど、これについては非常に広義の視点でものを捉えることができますので、そういう意味では下川町の施策とほかの地域との比較というのが非常に…大いに参考になって、自分自身の知識や知恵にもつながっていくんではないかと思っております。以上です。

○議長（近藤八郎君）　5番　我孫子議員。

○5番（我孫子洋昌君）　今、その研修に参加して、それがどういうふうに反映されるかといったところでの答弁がありました。私の知る範囲ではありますが、この地域経営塾に参加された職員の方が、その際に提案…自分はこういったことをやってみたいと…それは必ずしも職務とはちょっとつながらないところでありますが、子供たちとスポーツに取り組むといった内容で、その場で発表されていたことが…ちょっと前ですけれども…新聞報道でそういったスポーツクラブ的な事の活動が実際に形となっている。そういう意味では、実際の職場の仕事といったところとはまた別ですけれども、プランをして、発表をして、それで戻ってきて…自分が企画したことが実際に形になるといった経験を積んでいくことというのは、実際に大事ではないかというふうに考えるところです。

それで、いろいろな新しい事をやったりとか、先ほどＳＤＧｓであるとか…様々な計画の作成、それか…一つ前の先ほどの質問にある…いろいろな行政計画の策定で町の情報を得る、そういった一人一人から様子を聞くとか、現状把握するといったことが大事だというふうな議論をさせていただいたんですが、そのためにもですね、町の抱える業務量であるとか、人員配置であるとか、施策の優先順位付けなど、町を支える職員の環境整備…先ほど働き方改革といったことも申し上げましたが、職員が町の様子を聞き取り、把握する、そのためにはやはり…仕事に追われるっていう…追われるのはもちろん仕方がないことではあるんですが、目の前の仕事…国から…出さなければならないものに対して答えるとか、そういったことはもちろんあるにしても、町の様子を把握する、町民一人一人は難しいかもしれませんが、それぞれ町の人と様々な事で情報交換…会話をすると、コミュニケーションを取ると、そういったことで、より…この町にとって何が必要かといった施策を組み立てていく上でも大事なことではないかというふうに考えます。もちろん町民の声をしっかりと吸い上げるというのは役場職員には留まらず、ここにいる議員一人一人もそういったことで…その一端を担っているというふうに考えます。

人口減少をはじめとする様々な課題、そしていわゆるポストコロナといわれる時期を

迎えるこの下川町です。あらゆる立場の町民が、力を合わせて様々なアプローチ…先日実施されたアンケート…ちょっと回収率があまり多くはなかったようではありますが、そういったアンケートに答えるだとか、様々な形でこの町について自分がどう思ってるのかといったものを意見にする、いろいろなやり方あるかと思います。また、町の決まりを守って、ごみ出しのルールをちゃんと…いろいろできることというのは一つ一つあるかと思うんですが、そういう形で町をみんなで作っていく、様々なアプローチの方法で一人一人が…何だから…これだからというわけではなく、それぞれの関わり方で下川町を作っていく時が…今まさにきているのではないかというふうに考えます。

今回、谷町政の最後という一般質問の時間をいただきまして、町政、また、谷町長の町のあり方についての考え方や、行政の取り組み方、職員の人材獲得・育成の件について一般質問をさせていただきましたが、まさにこの令和５年の春というのが新しいまちづくりに向けた一つのきっかけ、それまでの８年間の谷町政が刻んできた歴史が更に次に向かって動き出していく大事な時であるということを町民一人一人が改めて認識する、そういった機会にしたいと思い、一般質問をいたしました。

もし最後一言、町長からあれば、お伺いして私の一般質問を閉じたいと思います。以上です。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。

町長。

○町長（谷　一之君）　我孫子議員の仰るとおりでありまして、今、下川も…先ほど来お話しておりますけども、人口減少という厳しい課題に当たっているわけでありますけども、そういう中でもやはり若い人たちが生き生きと暮らし、そしてまた高齢者の方々が長く住み続けたいという、そういうようなまちづくりというのが必要になってくるんではないかと思っています。先ほど、高齢化率が 40.1％のお話をさせていただきましたけど、ここ数年その数値が大きく上がっていないというのは、これは人口減少の中にも若い世代の人たちが下川に流入してきて、世代バランスが維持されているということに尽きてくるんではないかと思っております。いわゆる将来に向けても人口減少というのは…日本社会の中では避けて通れませんので、その中でも多様な社会を作って、そして世代バランスの良い、そういう地域づくりを目指し、そして共生型社会で持続可能なまちづくりという、こういうところが下川町の今後目指していく大きな理念ではないかと思っておりますので、私は退任させていただきますが、この後の方々、そしてまた本町の職員の皆さんにも…そういう意識でですね…まちづくりや、それから政策形成をしていただきたいと、このように考えているところであります。以上です。

○議長（近藤八郎君）　これで、我孫子議員の質問を閉じます。

次に、質問番号２番、４番　春日隆司 議員。

○4 番（春日隆司君）　質問をさせていただきます。今期最後の質問ということでございます。谷町政８年間を振り返り、学ぶことはなにかということでございます。

御案内のとおり、町長は勇退されるということでございますが、それに当たって、この8年間を総括して、学んで、今後にいかしていただければなと思います。

そこで、8年前、日本のモデルとなった町を引き継ぎまして、今日に至るわけですが、この8年間でどのような姿に町がなったのか…前進したのか、後退したのか、住み良くなったのか、どのように変貌したのか、第1点目でございます。

それから、この8年間を振り返りまして、解決しなければいけない問題を次の世代に先送りしたことはないのかと。

以上、2点でございます。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。

町長。

○町長（谷　一之君）　春日議員の「谷町政8年間を振り返り、学ぶことはなにか」についての御質問にお答えしたいと思います。

御質問の1点目、「8年前、日本のモデルとなった町を引き継ぎ、この8年間で、それがどのような姿に変貌したのか。」についてでありますが、本町は平成20年に「環境モデル都市」、平成23年に「環境未来都市」として選定され、森林資源を活用し、低炭素社会の構築や超高齢化社会への対応など、持続可能な地域社会を目指す取り組みは、先駆的な取り組みとして地域内外に広く認知をされているところでございます。

こうした流れの中、私の任期中におきましては、これまでの取り組みをいかしながら、更なる地域づくりの推進を図るべく取り組んできたのがＳＤＧｓでございます。

本町のＳＤＧｓは、平成29年に「第1回ジャパンＳＤＧｓアワード」の本部長賞を受賞、平成30年には「ＳＤＧｓ未来都市」の選定を受けたところであり、このことは、町が取り組んできた地域づくり活動が評価につながったものと考えてございます。

その後、第6期総合計画におきましても、持続可能な開発目標ＳＤＧｓを取り入れ、様々な事業を展開してきたところであり、その意味で、環境モデル都市からＳＤＧｓ未来都市へとつなげてきた一連の取り組みにつきましては、着実に前進をしたものと考えてございます。

御質問の2点目でございますが、「この8年間で解決しなければならないことを先送りしていないか。」についてでありますが、項目ごとに数値の詳細が求められてございますので、その回答をさせていただきたいと思います。

まず、平成27年度から令和4年度末までの途中退職した職員数につきましては、令和5年3月までの予定を含めまして、本庁職員が24名、施設等職員が22名、全体で46名となっております。

次に、客観的評価としまして、昨年11月14日から12月5日までの間、18歳以上の町民を対象にアンケートを実施いたしました。

第6期下川町総合計画の目指す目標値に掲げる「住み良いところだと思う人」の割合では、前回の平成29年度調査では「住み良いと回答した層」が73.9%だったのに対して、今回が69.8%で4.1ポイントの減少、逆に「住みにくいと回答した層」が、前回11.4%だったのに対して、今回が16.8%で5.4ポイントの増加、また、「住み続けたい

と思う人」の割合では、前回では「住み続けたいと回答した層」が 73.1%だったのに対して、今回が 73.0%で 0.1 ポイント減少、逆に「町外に移りたいと回答した層」が、前回 18%だったのに対して、今回が 22.5%で 4.5 ポイントの増加となっております。

また、8 年間のタウンプロモーションへの助成金等総額と窓口となった移住者数と転出者数につきましては、タウンプロモーション推進部への助成金…いわゆる事業負担金の総額は、平成 28 年度から令和 3 年度までの 6 年間で 9,503 万 3,000 円、うち国庫補助金が 4,751 万 6,000 円、特別交付税 3,801 万 3,000 円、町単独費 950 万 4,000 円となっており、タウンプロモーション推進部を窓口とした移住者数及び転出者数につきましては、平成 28 年度から令和 3 年度までの 6 年間で、移住者は 130 名、うち転出者は 22 名となっており、定着率は 83%と非常に高い数値となってございます。

こうした状況の中で、令和 2 年からはコロナ禍の影響などもあり、一部では制約を受けながらも、各事業の推進に向けて可能な限り取り組んでまいりました。

産業分野では、まちおこしセンター「コモレビ」、宿泊研修交流施設「結いの森」の建設、畜産クラスター事業として、4 件で 38 億円の投資、バイオマスエネルギーによる発電事業者の現地法人化と運用、養鶏事業者の継承、ゼロカーボン戦略推進室の設置などに取り組んできているところであります。

町民生活や教育に関する分野では、移住・定住対策の強化、浄水場整備の着手、防災力強化のための地域防災マネージャーの設置、宅配事業の展開、地域共育ビジョンの策定や商業高校存続に向けた取り組み、新型コロナウイルス感染症に係る施策では、3 か年で 10 億 2,000 万円の施策などに取り組んできているところであります。

地域の実情を見極めながら、一つ一つの事業に取り組んできており、多くの地域課題に対して施策を実施し、一定の成果はあったと考えているところであります。

以上申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　まず、この 8 年間、幸せ日本一を目標に掲げ、町政を担ってこられたと思いますが、この 8 年間、町長は幸せでありましたでしょうか。

○議長（近藤八郎君）　町長。

○町長（谷　一之君）　それは私自身がということでよろしいですか…。非常に厳しい行政課題、そしてまた難しい行政運営の中で、一生懸命取り組んできた…このへんが非常に私にとっては幸せ感があったと、このように感じております。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　町長は…大変とは申しませんが、幸せであったということでございます。

それから、何十年ぶりにですね…民間町長が誕生したわけでございますが、民間町長

としての手腕を発揮したということがございましたら、事例を挙げていただきたいと思います。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　民間町長というよりは、私が自分で経験してきた様々な中で、人脈あるいはまた経済活動の中でのヒント、こういうところが…少しは行政施策の中に反映されてきたんではないかと、このように感じております。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　民間と行政と…あまり区別する必要はないのかもしれないんですが、御案内のとおり、自治基本条例にもうたわれております…積極的な行政改革ですね、これ…2 年間遅れまして、お約束いただいた…今年作成するということもできないようでございます。なぜ行政改革ができなかったか、お尋ねいたします。

○議長（近藤八郎君）　町長。

○町長（谷　一之君）　行政改革…2 年間延長させていただいたわけでありますけど、これについては、首長の執行する任期期間や、あるいはまた総合計画の関係もございまして、このへんに少し整合性を作ろうということで 2 年間延ばさせていただきました。
　また、現実としては、コロナの感染症が大変広がりまして、会議等も非常に滞ったというのも実態としてあるわけでございます。
　いずれにいたしましても、今後の行政改革の大綱については、しっかりと 9 次の策定に向けて、次の方にそのへん…優先的に進めていただくように期待をするところであります。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　私の質問の…最後の回答がなかったんですが、まあ行政改革というものをね…積み残して、次に送ってしまったという実態かと思います。
　温暖化計画でございますが、これも 4 年度…策定することでございましたけども、4 年度で策定できなかった…なぜ策定できなかったかお尋ねします。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　これも情報収集、あるいはまた関係機関との連携の中でですね、未熟な計画を立てるよりも、しっかりした計画を立てていこうということで、若干先送

りをさせていただいたというところであります。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　答弁を聞きますと、ごもっとものような感じがあるんですが、計画を作る…お約束するというのは、本当に重たい話で、今、町長が言われたことも想定して計画を立てるということなんだと思います。これにおきましても、次に…先送りするということかと思います。

それから、民間的な視点でいうとですね、効率を図る、コストの削減を図る、これはもちろん…行政もそうでございます…法律で決まってます。最少の経費で最大の効果を上げる、行政改革を積極的に推進する、これは法律で決まってる話で…町の条例でも決まってる話でございます。そんな中で、除雪費でございます。さきにお手元に執行者等々の皆さまには御提供してるんですが、この 8 年間で…いわゆる 3 倍に上がってるんですね。それで、ちなみに 3 倍っていう数字がこれ…妥当なのかなと…まあ 3 倍という数字を見てですね。ちなみにちょっと調べてみました、札幌市…これまあ財政の問題があるから札幌市を例に取るというのはちょっとあれだと思うんですが…札幌市が 6 年間で…2016 年から 2022 年…6 年間ですけど、上がったのは 14%。開発局…いわゆる国道 239 号線の除雪、単年度で見ると…元年と 2 年で見ると 12%の増…2 億 2,000 万円ぐらいですね。一方、その年の元年と 2 年度、町の除雪費…5,900 万円が 9,800 万円、66%増加した。参考に近隣の町村の除雪費用を調べました…名前はちょっと伏せさせていただきます。必要があれば後で個別にお話をいたします。平成 26 年から今年…4 年度まで、上がったのは 2 倍です。除雪に従事する人件費、さらには物価、いろんな資材、歩掛り、いわゆる 3 割上がったものがあれば、ちょっと教えていただきたいと思います。私が知る限り、経済成長もございますけども、いろんなものでね…上がっているというのは 2 倍ですね…せいぜい。先ほど言ったように 3 倍上がった…細かな事はね…ここではあれなんですが、3 倍という数字を捉えてものを言ってるわけでもございませんが、なぜ 3 倍にも上がるのかという根本的なところをちょっとお尋ねいたします。

○議長（近藤八郎君）　町長。

○町長（谷　一之君）　一番大きなものは、町独自の単価を設定した時代から道単価に準じたということでありまして、この時にやはり町の単価というのが非常に低い状況だったわけでございまして、そこで単価の上昇はあったということが 1 点だと思います。

そのほか、時代潮流の中で…やはり人件費の高騰、機械費の高騰、燃料の高騰などなど、そういう点から本町の除雪費は上がってきたんではないかと思っています。ちなみに今、他の市町村のお話をしておりましたけど、近隣でも同じ…町道距離でいって、大幅に本町よりも総額が大きいところもございますので、一概に…3 倍になったという…その観点だけで考えるのはいかがかと思うところであります。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　私たちの議論の中でね、一定の成果があったとか、事業を行ったとかでなくて、税金の使途からすると…客観的にね…やっぱり数字で示していただければ…他の町村が上がったって…私が言いましたとおり、他の町村はせいぜい 2 倍ですね、このへんですね…何て言うんですかね…調べてみますと、予算を措置…事前にするんですけども、全部…満額に使うと。ですから、私は業者の人の話ではなくて、執行側の…やっぱり責任なんだと思うんですね、チェックをどれだけしてるのかと、お金はあるだけ使うと、こういうところをやはり…先ほど言いました…この 8 年間を踏まえて、私たちは学んで、次に伝えなければいけないなというふうに思います。

続いて、町有林でございます。昨日、新年度予算の総括の中で、理念…考え方は縷々説明を受けました。ちなみに 50ha かける 60 年…今日の答弁聞いてても、循環型森林経営、循環型森林経営というのが飛び交うわけですけども、昨日、理念を伺いましたけど、ここ 4 年間…30 年から令和 3 年度で植えた面積は 48ha です。いわゆる 50ha を毎年植えるという理念の下で、4 年間で 48ha。いくら伐ったかというと 140ha ぐらい伐ってるんですね。理念はいいとして、実態ですね、1ha400 ㎥と…昨日話がありましたけども、100ha の差が出ると 40,000 ㎥…これ伐ってるんですね…成長以上に。ですから、このへん…やはり学んで、次にしっかり理解をしていかなければいけないと思うんですが、循環型…いろいろお話がありましたけども、具体的に実践して…私が今申し上げたものに何か…違いがございましたらお答えいただきたいと思います。

○議長（近藤八郎君）　町長。

○町長（谷　一之君）　どんな施策も 100％はございませんので、常に研究し、そしてまた情報収集して、そして政策形成をしていくことが大事だと思います。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　ごもっともでございます。それで、次、人口対策です。先ほど町長が、高齢者が 40％から増えない、移住者があってね…年齢構成のバランスがよかったということだと思うんですが、これも執行者側に資料を提供しておりますが、間違ったメッセージを発すると、ああそうなのかということになるんですね。何回も…もう本当にしつこいなと思うぐらいですが…最後なので…これ皆さん共有する。この 4 年間、255 人が減ってるんです。そのうちの 185 人が 0 歳から 14 歳、25 歳から 44 歳、いわゆる 4 人のうち 3 人…子育ての世代が下川から転出してるということでございます。さらに、これ…対策を打たなければ大変な事になるというのはですね…後ほど言いますけど、アンケートですね…町民アンケート。町外に移りたいという方が、いわゆる 18 歳から 29 歳までの人が、今回のアンケートですね…57％…四捨五入しますと 6 割の方が下川から移りたいと考えてるわけです。ちなみに、平成 26 年…アンケート調査によると 30％です。この現実をしっかり政策として、的確に人口対策の歯止めを利かすための政策が打たれたかというところでございます。

それと、何回も申し上げますが、これもう本当に…私はもう後半ですね…この弁を…随分お話をさせていただきました。その度に人口対策は最重要課題である、子育て世代を中心に積極的な移住定住を進める、政策形成をしっかりしていかなければ人口動態にも影響がある。結果です…結果…政策形成がしっかり図られなかったことによって、人口動態に影響したということを言わざるを得ません。もう本当にしつこいようですが、そのへん町長どういうふうに総括されておりますか。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
町長。

○町長（谷　一之君）　人口減少の実態は、今、春日議員が仰るとおりであります。しかし、この条件不利地域の中、そしてまた北海道には 140 近くの過疎指定の町がございますけれども、同様に人口減少が起きて、同様に政策形成に努力をしてきているわけであります。そういう中でも本町においては様々な突出した施策も進めながら、そして情報発信をし、そしてまたふるさと運動等の活性化につながっておりますし、さらには地域おこし協力隊の移住者など、こういう方々も下川町に魅力を感じて流入してきているという実態もあります。
いずれにしても、厳しい人口減少の社会ではありますけれども、今後もそういう課題をしっかりと見つめてですね、そして新たな政策形成に期待するところでございます。
以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　次ですね…いろんな議論の中で、下川だけではないという話をされます。抽象的なやり取りが非常に多い。そしたら、どこの町が下川町と同じような条件なんで、傾向的に見てこうですよという…そういう議論をしなければですね、町長が言われることはもう本当にみんな信用しますよ…当然。そうすると問題の本質をね…やっぱり見失うということが言えると思います。ちなみに、例年の実態でいうと 3 月末…これ 3,000 人切ります。特にこの 3 年間…特に以前から指摘しておりますとおり、出生者が少ない…9 人か…これですね本当にボディブローどころじゃなくて、本当に地域はこれ…次、明らかにこの影響というのは出てきます。
それから、この 3 年間、私の推計では 261 人減ると、いわゆる…要因を分析しなきゃいけないと思うんですが、今までの状況であれば 3,100 人は最低クリアできてた。いわゆる政策をね…どういう政策を打てたか打てなかったかによって、人口に影響が…私は出た…出てるというふうに思います。
次でございますが、私が分析する…この 8 年間、今までのいろんな議論を踏まえてですね、下川町には発展期と衰退期とブランド期みたいなのがあって、これまで…いわゆる町長が行政主導の弊害が出てるということで、27 年、町長選に立起されて、風穴を開けるんだと…行政機関に…というところでございます。それに始まる前に、行政の組織に風穴を開けるということだったんですが、先ほど、職員の退職者数の話がありました。

昨日頂いた資料によって、職員数…これ私の計算でいうと、庁舎内が 77 名…教育委員会含めて。77 名のうち本庁職員が 24 名…中途退職してると、3 人に 1 人がこの 8 年間で中途退職をしたということです。施設においても…私の計算では 90 名になります。その中で 22 名が退職したと、これにおいてもどうでしょう…4 人に 1 人…5 人に 1 人…これは何ですかね、現代の社会風潮ですよというだけでは片付けられない何かがあるんではないかなと…これは推察推測ですね。このへんどういうふうに町長は 8 年間総括されておりますか、総括されますか。

○議長（近藤八郎君）　町長。

○町長（谷　一之君）　昨今の公務員の自己退職というのが非常に多くなってるというのは、全国的に数値から出てるようでございます。その要因はいろいろ考えられるわけでありますけども、やはりその…自己実現で、価値観を行政だけに求めてきてないというのが…大きな要因ではないかと、さらに家族の都合、家庭の事情…いろいろございますけれども、そういうようなところも非常に…これまでの退職者の要因を見てみますと考えられるんではないかと思っております。

いずれにしても職場環境というのは今後もしっかりと円滑なものにしていく必要がありますので、職場ぐるみでですね、その点の環境改善というのが求められてくるんではないかと思っております。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　前後しますけども、今、職員の問題含めてですね、やはりその…何ていうんですかね…移住政策もそうですけど、ちょっと事例として分かりやすいということで使わせていただきますと、漏れバケツという理論が結構いろんなところで出てきて、バケツがどれだけ漏れてるかということですね…上から入れるのはもちろん。

下川町の今回の人口なんかはまさしく分かりやすい事例で、定住移住ということの…タウンプロで…これ人件費かけたら 1 億と言ってますけども 2 億です…人件費かけると 2 億円の投資をタウンプロに入れてます。これ先送りの話ですが…2 億円を別会計で…前にも議論した…法人化するという中で…これ法人化だとかしてない中で、町長の別組織としてね、別財布で…これやっぱり先に解決しなければいけない問題だと…2 億円のお金を別財布でやり取りしたっていうことですね…人件費は抜いて…これはこれでまた先送りの話だと思うんですが。先ほど言った人口の減少からすると、移住はどんどん入ってきてるんですが、人という事で言うと…バケツ…適切じゃない表現かもしれませんが、バケツに穴が空いているから…政策をしない…どんどんどんどん抜けていっちゃってる、でも見てるのは移住だけ、移住で成果があった。職員なんかにおいても…本当にちょっと…人とバケツは…ごめんなさい…適切な例ではないと思うんですが、本当にどんどんどんどん…風穴が開いたのかもしれないですが、大きな穴に拡大していって、どんどんどんどん漏れていってるっていう地域の実態だったというふうに思います。それは…私が言うのは漠然ではなくて、御承知のとおり根拠を示したつもりでございます。

それで、この 8 年間振り返って…8 年間というか…私が承知している…この 8 年間というよりは…30 年間ぐらい、40 年間ぐらいって言った方がいいんでしょうか、本当に先人は苦労して、衰退期の中で本当にいろんな取り組みをされてきました…ちょっと長くなりますけど、大切なところなので是非お願いします。

長年の循環型の森林経営から、いろんな取り組みをしてきました。そうした長年の取り組み、蓄積された政策効果や、地域の魅力づくり、これが一定程度…平成 26 年度で結実したと…結んだと。そして、これいいかどうかちょっと置いてですね…日本のモデル、言い換えれば世界のモデルの自治体に押し上げたと、その結果、象徴するのが 27 年のＳＤＧｓアワード受賞…総理大臣受賞だと思います。これは並大抵でもらえるものではないと思います。これがお墨付きだったんだと思います。いわゆる…先人から 40 年 50 年続けてきた結実としてアワードを受賞した。そして第 1 期の 30 年度までですか…その余韻で移住者も増える、財政は 10 億円、起債をして事業化する、3 億円貯金を取り崩す、その余韻で一気に進んできて、そして元年、それまでに築いてきた 4 年間で、魅力づくりとか政策づくりというのが…十分な取り組みができなかった。その結果、コロナの影響もありますが、元年から 4 年について…衰退をしたと、後退をしたと…後でまた説明しますが、先ほど言った数字でございます。もし、下川町はこの 8 年間で前進したんだ、進化したんだということがあれば、是非、御説明をいただきたいと思います。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。

町長。

○町長（谷　一之君）　春日議員の仰ること…分かるわけでございますけれども、いわゆる平成 26 年度まで私は議員をやってございましたけれども、この時、春日議員は現職の町職員で、環境モデル都市、未来都市、バイオマス産業都市など手掛けてですね、成果を上げてきたと、そういう評価で私は考えております。その延長上で、私になってからＳＤＧｓの認定を受けたわけでありますけども、やはり過去の様々な実績…そこが春日議員が自分自身の評価をしてるところではないかと考えております。

また、私が…8 年間の中で政策形成については非常に乏しいものがあったということは認めてございます。しかし、そこは町職員が一丸となって様々な施策展開をして、そして成果を上げてきたと思っております。そのへんは人口増につながるかどうかというところは問題ありますけれども、住民サービスの機能は非常に向上したんではないかと思っております。例えば事例でいきますと、医療分野においては、これまで着手していなかったＣＴの機器や電子カルテの導入などを実践いたしましたし、また、理学療法士の採用なども進めてまいりました。一時的ではありましたけども、外科医師の採用をしたりですね、あるいはまた医師団の訪問診療や訪問看護など…こういうところにも新しく着手をしてですね、そして住民サービスの機能を上げてきたという…そういう成果もあったわけであります。さらには、産業分野においては、先ほど…1 回目の答弁でもさせていただいたところでございますけども、畜産クラスターについては私が一番力を入れてきたところでありまして、おかげさまで四つの事業を展開することができて、畜産酪農の分野においては北海道内においても下川町のクラスター事業というのは進んで

きたんではないかと。ただ、今は物価高騰などで非常に厳しい状況になってるわけでありますけど、これについては今後の政策の中で課題解決できるように期待をするところであります。また、教育分野におきましては、これも先ほど申しましたけど…地域教育ビジョンを策定いたしまして、そして住民の皆さんの協力を得ながら…子供たちの教育や学習の指導をしていくという、こういう新しい視点で取り組んできたこともございました。さらには、生活分野においては、御指摘をいただいておりますけども…除排雪の民間移行というのを…平成 28 年度から実施して、これ実態として非常にサービス機能が上がってるわけであります。一つ…その中でいいますと、これまで直営でやってきた時は、除雪の始動が 5 時だったのを 4 時 30 分に…30 分早めておりますし、また、20 ㎝以上の降雪があった時は 4 時に出動するという、こういう受託者の考え方がございまして、サービス機能が非常に伸びてきたというのがあるわけであります。さらには、防災対策として、防災マネージャーの採用も新しくさせていただきましたし、コロナで一時中止をしておりますけれども…町民懇談会も私の時代になってから進めさせていただいたというものがございます。さらには、防災訓練等も進めさせていただいたところであります。まあ様々な施策を展開しながらですね、住民の皆さんが…より良い生活を送れる、そういうような手立てを…これまでも汗をかいてきたところでございますけれども、その評価については、私自身よりは…皆さんにしていただいてですね、8 年間をいろいろと点数をつけていただければ幸いかと思うところでございます。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　これ 1 点…今すごく重要な…町長…話をされたんですが、これまでやってきた…職員としての私の実績を自分の評価としている…とんでもない話だと思いますよ。職員の方なら皆さん…町民の方もお分かりだと思いますが、町長の…あくまで補助員です…職員は。町長の考え方、町長の方針に基づいて、それに基づいてどう執行するかと、執行の補助をしていくかということが職員に課せられた話で、どの職員に聞いても自分の評価のためにやっているって職員はいないと思いますよ。これはねちょっと…民間の会社から見るとそうかもしれないんですが…評価を上げなければね…お金が上がらない…ポジションが上がっていかない。職員は自分というものを出さないで…殺して仕事をしていると思います。あくまで町長の考え方、町長のハンドリング、町長の事だというふうに思います。

それで、どう評価するということなんですが、先ほど…アンケートがございました。

まさしくこれは…私の評価ではなくて、客観的な評価として…極めて、繰り返しになりますが、26 年…谷町長になる前ですね、住みよいって答えた人が 79%、今回は 69%、10 ポイント落ちてるんですね。それから、住みにくいという評価をした人 9%…26 年、それが上がってきて 16%。住み続けたい…これは 68%が 73%。町外に移りたいという方が 26 年 11%、それが 22%。前回議論した時に、サンプル数が違うとかね…私からいうと訳の分かんない話があったんですが、今回は…26 年のサンプル数が 913、今回 998 ということで比較ができると。町長も申しておりました、住みよいところだと思う人がどの程度いるか、住み続けたいと思う人がどのぐらいいるか、これが大きな二つの核で、

目標であると。先ほどありましたから、私どもの評価として、何ではかるかというとですね…こういうことになるのではないかというふうに思います。
　それでは、今回の経過を踏まえて、学ぶことを…ちょっとお話をしていければなと思います。これで学ばなければいけないっていうか…確認したことはですね、町長の政治公約、それから総合計画の事業計画、これだけでは…計画を上げる、町長の公約だけでは、結果として…良い町…いわゆる住み続けたい町という結果にはならなかったということですね。ですから、ここで学ばなければいけないのは、やっぱりその政治公約もそうですが、総合計画もそうですが、しっかり良い町であると、住み続けたい町であるということを前提とした計画を樹立しながら、しっかり…どうだったかというところを評価していかなければいけないということを学んだんだと思いますが、この点いかがでしょうか、共有していただけるかと思うんですが。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　春日議員の仰るとおりでありまして、いずれにしても結果だけ見てしまうと、そういうことになってしまう…ただ、やっぱりプロセスというのが非常に大事でありまして、結果は…例えば一つに人口減少というのがありますけど、その要因は、どうしても行政施策だけでは限界があるというのは…これ何回も伝えたことがありますけれども、経済活動というのが非常に停滞してきている、あるいはまた人口減少によって消費購買が落ちてる、さらには飲食店やスーパーの小売業等が廃業することによって、住民の利便性が低下してしまったと、様々な要因があるというように考えております。その中で、行政としてどこまでそういう課題解決をしていくことができるのかという、そこは今後もですね、職員の施策形成や、あるいはまた首長の政治手腕を期待するところであります。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　そのとおりです…そのとおりだと思います。経済活動で…人口変動が起きたのは、いわゆる畜産クラスター…事業展開でですね、働く人たちが…お子さま、家族含めて相当数の方が入っています。これは経済活動における人口の増です。
　一方、町有林の管理、これは御案内のとおり組合でやっているわけですが、この経済活動が停滞することによって人口が減少した、まさしくそのとおりです。そこで行政は何をするかということが役割として出てくるんだと思います。下支えがしっかりできるかどうか、下支えを…例えば畜産クラスターであれば町が財源的な支援をする、森林組合の場合は…何でしょう…組織だから町が一向に何も手をつけられないということではなくて、しっかり自分の財産を管理してもらうところでございますが、しっかり指導するというんですかね…一緒になって取り組むということが経済活動における行政の役割であるし、その成果として出るんだと思います。
　それから、1 点、やっぱりこれ下川町として総括しなければいけない話だと思います。

町を二分した…一つのきっかけとも言っていい…バイオマスの熱供給の問題です…分からない方も多いかもしれませんが。私が聞き取り調査した結果ですが、これについては町長も政治生命をかけられた、それぞれの立場で皆さん政治的な判断をされた。私が聞き取り調査した結果でいくと…余剰熱を使うという話です。今、余剰熱が…それだけ供給するものがないというふうに私は把握しております。本当に…この事業は 8 億 2,000 万円の熱導管を引く事業でした。下川町…下水道を除いて…最後の大型公共事業だという…町長も発言されたかもしれませんが、本当にこれは…いろんな立場でいろんな事もありましたけど、下川町として…本当にやらなくてよかった。私も当時委員長で、まとめ役であったわけですけども、本会議でね…委員会での賛成を覆して反対を表明しました。さらに、立場のある人が…本当に…態度を表明された。本当にこれは下川町にとって本当にやらなくてよかったという…実態からするとですね。そしてその中で、事業体は、今、事業化をやっているところでございますが、町長はそのへんどのように実態を把握されて、どのようにこの8年間で…8年間というか…総括をされておりますか。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
町長。

○町長（谷　一之君）　それはバイオマスの関係だけの話ですか…当時は熱電併給ということで立案をして、そして提案をさせていただいて、否決をされたわけでありますけども、大変残念な思いをしたわけであります。今、バイオマス事業については、全国的に様々な所が取り組みを始めてございまして、本町においては、電力のところ、そしてまた熱のところについては、それぞれ少しずつ他の地域から遅れを取ってるところもあるんではないかと、今…危惧してるところであります。その中でも当時のバイオマス発電、そして熱電の事業につきましては、現地法人を設立していただいて、そして雇用にもつながり、そしてさらには資源活用にもつながってるということが考えられるわけでありまして、細かい実態については把握してございませんけれども、そういう意味では企業誘致の一つにもつながったんではないかと、このように考えているところであります。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　企業誘致の一つにつながったと…そういうその…何というんですかね…企業さんもそう思ってないですし、前にも質問したとおり、町は企業誘致ではないっていうことを明確に言ってるわけで、何て言うんですかね…言葉が一人歩きするようなことが、やっぱり…僕は 8 年間いろいろ続いてきたなというふうに感じております。本当にですね…繰り返しになりますが、本当に議会…いろんな…二分したんですけども、本当に賢明な判断をしたと思います。それと、二分することは…まあいろんなことで二分するのは分かるんですが、町長はこれ…二分をした解消のためにですね、町民が一つになるためにどういう努力をされてこられましたか。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　選挙で二分という表現の仕方はしますけれども、現実には住民懇談会、あるいはまた様々な住民参加のワークショップなど、いろんなことを進めてまいりましたので、私としては二分という考え方はしてございませんので、理解をしていただければと思います。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　あとそれと…執行者と行政の関わりですね、これ学ばなければいけないなっていうのがあるんですが、この 8 年間、いろんな面で…否決とかですね、修正、それから今回もあった取り下げ、本当に…町史を見ても…こんなことはなかったんでないかなと…私の知る限りですね。もちろん執行者と議会の役割っていうのがあるんですが、私は議会から見るとですね…本当に大変だったと。なぜ大変かというとですね、表現がちょっとあれですけど…分かりやすい言い方すると、しっかり荷物が積まれて、しっかりした形で荷物が送り込まれてくると、その検査・検定を議会が…分かりやすい言い方をすると…するわけですけど、荷崩れを起こしてきてる荷物が本当に多かったと、もうちょっと…荷物を正しく積み直すのか、積んで…その前に情報共有をしながらね…目指すところは一緒なんで、本当に荷崩れを起こしてきたものが多い、その結果として取り下げ、否決、修正というのが多くなった、僕はこれは提案する人の責任も多大ではないかなと思うんですが、振り返りまして、町長は議員も…本当に長年経験されてね、両方分かられて、谷町長の関わっているときにはこんなになかったと思います。
　どのように理解されておりますか。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　春日議員が就任されてから、活発な機会、そして旺盛な政策形成能力の議員の皆さんが増えたということに尽きるんではないかと思います。以上です。

○議長（近藤八郎君）　4 番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　まあちょっと…裏を返せば…まあ言わない方がいいかもしれませんね…はい失礼しました。
　それから、町長は職員にね…非常にコミュニケーションを求められてきておりました。
　そんな中で、私が学んだのは…学んだっていうか…議会から見てですね、外交と内政のバランスっていうのは極めて重要だなということを学びました。あとは、職員との意思疎通…コミュニケーション、指示、命令、伝達、確認、思いつくまま喋ったかもしれませんが、その点、職員との関係についてどのように総括されておりますか。

○議長（近藤八郎君）　答弁を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　年間、大体どの程度の職員との懇談をやるかというのを…当初は進めてきておりましたけれども、最後の３年間…やはり新型コロナウイルス感染症の関係で、なかなかそれがかなわなかったと。会議でさえもなかなかそれがかなわなくてですね、そして開催ができないという事実もございました。しかしそれは言い訳になってしまいますので、そういう意味ではコミュニケーションが非常に足りなかったところがあったんではないかなと思っております。以上です。

○議長（近藤八郎君）　４番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　まだまだ確認をして学ぶ事がたくさんあるんですが、是非、今日の議論を踏まえてですね、自治体というのは継続性ですので…もちろん基本となる職員の方におかれましても、町民の方はもちろんでございますが、今日の議論を踏まえて、学ぶところをしっかり学んでいただきたいなと思いますが、誰がなるにしろ…次の首長におかれても、今日の議論で学んでいただいて、それぞれの立場で、どういう現状で下川を譲り受けるのかというところを皆さん一人一人考えながら、次につなげていっていただければいいかなというふうに思います。
　それで、町史の編さんも…なかなか進んで…町の歴史の冊子ですね、町史に谷町政の 8 年間、自ら総括してというところを町史に掲載されるとするならば、突然でございますけども…この８年間、自分で振り返り、町史に記載されるとしたら…コメントをいただければと思います。

○議長（近藤八郎君）　町長。

○町長（谷　一之君）　8 年間、長いか短いかは…それぞれ判断は違うでしょうけども、一生懸命やってきたということに尽きるんではないかと思っております。また、一般質問の中に、先送りしていないかという…様々な施策についての質問がありましたけれども、課題については…これ毎年のように発生してくるものがたくさんあります。それはその都度しっかりと解決しながら、そして持続可能な…そういう行政運営というのが求められてくるんではないかと考えてございますので、そのへんは念頭に置きながら、職員の皆さん、そしてまた次の政治を目指す方々に託していきたいなと思っているところでございます。以上です。

○議長（近藤八郎君）　４番　春日議員。

○4 番（春日隆司君）　昨日も町長からお話を聞いて、いろんな…ふるさとづくりの表彰…それから遺産ですか、循環型森林経営ではなくて、例えばバイオマス、さらには森

林の吸収クレジット、森林組合にあったゼロ・エミッション等々、いろんな評価を受けたということで、いろんな賞を受けたと。私はもう本当に率直に…10年前の話を聞いてるなというふうに思っておりました。

それで、今後、是非期待をいたしたいのは、今後の4年間、しっかり…やっぱり先人が築いたものを望ましい姿にして、この4年間こうやりましたと、こう地域は変わりましたと、変えましたと、そして時代につなげますということを町民とともに、または職員一丸となって達成されて、下川がもちろん永遠に続くことを御祈念申し上げまして、私の最後の質問とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○議長（近藤八郎君）　これで、春日議員の質問を閉じます。

以上で、一般質問を終わります。

ここで、11時10分まで休憩といたします。

休　憩　　午前１１時　１分

再　開　　午前１１時１０分

○議長（近藤八郎君）　それでは休憩を解き、会議を再開いたします。

○議長（近藤八郎君）　日程第3　議案第64号「令和4年度下川町一般会計補正予算（第10号）」を議題といたします。

本案については、総務産業常任委員会に付託してありましたので、委員長の報告を求めます。

大西 功 総務産業常任委員長。

○総務産業常任委員長（大西　功君）　今定例会議において当委員会に付託を受けました、議案第64号　令和4年度下川町一般会計補正予算（第10号）について、委員会における審査経過と結果について報告をいたします。

今回は、一般会計の第10回目の補正予算でありまして、緊急を要するもの、補助事業の採択によるもの、事務事業の確定及び見込み等による補正であり、歳入歳出それぞれ1億1,431万円を減額し、総額を55億3,591万円とするものであります。

審査に当たり、総務課長などから概要書、事項別明細書等により補正予算の説明を受け、その後、所管課長などから説明を受けました。

委員からの質疑では、障害者施設支援費で「需用費の補正額が大きいが、原因は」に対し、「新型コロナウイルス感染症のクラスター発生に対応した消耗品である」こと、また、総務費の一般管理費で「デジタル人材派遣元企業負担金が大幅に減額された要因」に対し、「当初1,000万円計上していたが、業務内容の具体的な方向性が決まっていなかったため、協議の上、契約金額を減額したものである」、さらには「地域起こし協力隊の

確保が進まない。確保しづらいフェーズなのか、打開策があるのか」の質問に対し、「具体的な分析はしていないが、あらゆる媒体を使って募集している。一部は応募があって面接まではいっているが、誰でもいいという訳ではなく、こちらが求める人材まではいっていない…とのことで苦労している」との答弁がありました。

廃棄物処理施設管理運営事業に係る最終処分場廃止等に伴う減額については、「令和元年 12 月に終了届を振興局に提出し、水質、ガス分析を行った。管理委託もしていたが、分析結果が基準値で、令和 4 年 3 月に廃止届を提出した。しかし、冬期間で現地検査ができなかったため、令和 4 年 4 月に総合振興局の検査を終え、廃止決定となった。今後は管理をする必要がなく、汚水処理施設の処分をしていきたい」とのことでありました。

その後の委員間討議では、「複数の事業が地域おこし協力隊の採用を前提として立案されていた。しかし、応募はあったが町の要求レベルには至らず、採用ゼロであった。今後、立案段階において、地域おこし協力隊のみならず、ほかの採用ルートを考慮する、または待遇条件の見直しを行うべきである」などの意見がありました。

以上、当委員会の審査の結果、原案どおり可決すべきものと決したところであります。

議員各位の協賛をお願い申し上げ、審査の経過と結果について報告といたします。

○議長（近藤八郎君）　ただいま報告がありましたが、これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（近藤八郎君）　質疑なしと認めます。

これから討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

（な　し）

○議長（近藤八郎君）　ないようですので、次に原案に賛成者の発言を許します。

（な　し）

○議長（近藤八郎君）　討論なしと認めます。

これから、議案第 64 号を採決します。

本案に対する委員長の報告は、可決です。

議案第 64 号は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は、起立願います。

（賛成者起立）

○議長（近藤八郎君）　全員起立です。

したがって、議案第64号は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（近藤八郎君）　日程第4　議案第70号「令和4年度下川町病院事業会計補正予算（第4号）」を議題といたします。

本案については、総務産業常任委員会に付託してありましたので、委員長の報告を求めます。

大西 功 総務産業常任委員長。

○総務産業常任委員長（大西　功君）　今定例会議において当委員会に付託を受けました、議案第70号　令和4年度下川町病院事業会計補正予算（第4号）について、委員会における審査経過と結果について報告をいたします。

今回は、病院事業会計の第4回目の補正予算でありまして、入院患者数及び外来患者数の予定量に対する減少等によるもの及び新型コロナウイルス感染症対策によるもの及び緊急を要するもの等による補正であり、資本的収入では寄附金による補正となっています。

病院事業収益では2,627万円を減額し、総額を5億905万円とし、病院事業費用では371万円を増額し、総額を5億8,424万円とし、資本的収入を50万円増額し、総額を4,352万円とするものであります。

審査に当たり、事務長から概要書、事項別明細書等により補正予算の説明を受けました。

委員からは、「往診や医療機器の破損状況」、また、「新型コロナウイルス感染症でのマスク着用」に関する質問がありました。

事務長などからは、「往診の実人数は10人である」こと、「医療機器は、取得後相当年数経過し、保守の期限も切れているが、たまたま合う部品があった」こと、「3月13日以降のマスク着用は、職員に関しては引き続き着用する」などの答弁がありました。

以上、当委員会の審査の結果、原案どおり可決すべきものと決したところであります。

議員各位の協賛をお願い申し上げ、審査の経過と結果について報告といたします。

○議長（近藤八郎君）　ただいま報告がありましたが、これから質疑を行います。

質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（近藤八郎君）　質疑なしと認めます。

これから討論に入ります。

まず、原案に反対者の発言を許します。

（な　し）

○議長（近藤八郎君）　ないようですので、次に原案に賛成者の発言を許します。

（な　し）

○議長（近藤八郎君）　討論なしと認めます。
　これから、議案第 70 号を採決します。
　本案に対する委員長の報告は、可決です。
　議案第 70 号は、委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は、起立願います。

（賛成者起立）

○議長（近藤八郎君）　全員起立です。
　したがって、議案第 70 号は、委員長の報告のとおり可決されました。

○議長（近藤八郎君）　日程第 5　承認第 1 号「下川町いじめ防止対策推進条例の一部を改正する条例の撤回について」を議題といたします。
　本案について、撤回理由の説明を求めます。
　町長。

○町長（谷　一之君）　本案は、去る令和 5 年 3 月 6 日、令和 4 年下川町議会定例会 3 月定例会議において提出いたしました、議案第 60 号　下川町いじめ防止対策推進条例の一部を改正する条例につきまして、議案を撤回させていただきたく、下川町議会会議条例第 22 条第 1 項の規定により、申し出をするものであります。
　撤回をお願いする内容につきましては、議案第 60 号において、「下川町いじめ防止対策推進条例第 28 条に定める、下川町いじめ問題対策専門委員会について、非常勤の特別職である同委員会の委員の報酬が規定されていないことから、本条例の附則において、非常勤特別職の報酬を定めている、下川町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例にその額を規定する」というものでありましたが、同委員会の委員の報酬の区分を、より明確に規定するため、下川町いじめ防止対策推進条例に直接報酬の規定を設けることが適切であるとの認識に立ったことから、下川町いじめ防止対策推進条例の一部を改正する条例の議案の撤回をさせていただくものであります。
　この間、議員各位におかれましては、御審議に多くの時間を頂戴し、お手数をお掛けしましたこと、本議案の早期成立に御支援いただいた多くの町民の皆さまに対しまして、心よりお詫び申し上げます。
　以上、提案理由といたしますので、御承認を賜りますようお願い申し上げます。以上です。

○議長（近藤八郎君）　ただいま撤回理由の説明がありましたが、これから質疑を行います。
　質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（近藤八郎君）　質疑なしと認めます。
　討論を省略し、これから承認第１号を採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（近藤八郎君）　異議なしと認めます。
　本案は、提案のとおり承認することに賛成の方は、起立願います。

（賛成者起立）

○議長（近藤八郎君）　全員起立です。
　したがって、承認第１号は、原案のとおり承認されました。

○議長（近藤八郎君）　以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。
　本日は、これをもって散会といたします。
　なお、3 月定例会議の再開は、3 月 16 日、午後 3 時からとなりますので、御出席をお願いいたします。以上でございます。

午前１１時２２分　散会